

平成16年4月23日

16 情セ 第 56号

農林水産事務次官

石 原 葵 殿

政策評価に関する提言

(財)農林水産奨励会

農林水産政策情報センター

代表 大 河 原 太 一 郎

農林水産省においては、平成12年度から政策評価を実施してきており、前向きに取り組んでおられることは高く評価するものである。しかしながら、言うまでもなく政策評価は、まだ取り入れられて日の浅いわが国のみならず、先進諸外国においても着実に進化し続けている分野であり、農林水産省においても、その実施に遺漏なきを期するだけでなく、将来の改善・発展に向けた積極的な取り組みが期待されているところである。

当農林水産政策情報センターにおいては、平成11年の発足以来、政策評価を主要テーマとし、平成14、15両年度においても、農林水産政策に係る政策評価の調査研究に取り組んできたところであるので、その成果を踏まえ、農林水産省の政策評価の今後の発展に向けて、次のように提言する。

1. 今後の農林水産政策の展開 に当たっては、当該政策のプロセスやアウトカムが常に問われるようになってくるであろうことに鑑み、新規に政策をスタートさせる際には、「政策の目的」や「成果指標」を明確に打ち出し、事後の政策評価において当該政策のアウトカムが円滑に把握できるようにすること。

ちなみに、最近の新政策では、あまりにも沢山のコンセプトや事業を詰め込みすぎ、当該政策が誰をターゲットに何をしようとしているのか、分かりかねるものが見受けられる。

2. 最近、新しい政策を講ずる場合、検証指標としてアウトカム指標が求められ、それを的確に示すデータが必要になっている。これまでの評価においては、例えば生産統計等、ともすれば指標もその検証データも既存のものの使用にとどまりがちであったが、既存の統計データからは、アウトカムを適切に示す政策指標や検証データを得られないことが多いので、国民へのアカウンタビリティを十全に果たすという視点に立って、当該政策が国民のニーズに応えており、当初目的とした政策効果が発現できているかどうかを適切に把握できるアウトカム指標や検証データとなるよう早急に整理しなおすこと。

3. 政策評価によって政策の効果を検証する際に、今後、計量経済学の計算結果等、具体的な数字で示すことが多くなってくるものと思われるが、こうした場合に、農林水産政策の特性から、例えば消費者余剰等は、農林水産省にとって厳しい数字となることが多くなることが十分予想される。しかしながら、消費者に軸足を おいた農林水産政策の展開を目指す以上は、そうした厳しい数字であっても、隠すことな

く公開し、その上で、当該政策についての消費者の理解を得るという方向で取り組むこと。

当センターで実施した牛乳の「不足払い制度」の数量経済学による計算結果では、生産者にとっては極めて有効かつ適切な政策であったにもかかわらず、消費者余剰の計算では大きなマイナスが出る、という結果になった。

4. 政府では、今後講じようとする規制措置について「規制インパクト評価」を実施することとし、平成16年度にその試行に取り組むと聞いている。しかしながら、当センターの英国調査の結果では、当初「規制」の影響評価であった「規制インパクト評価」手法が、すべての政策の事前評価に適用される方向に進んでいる模様である。したがって、わが国においても、「規制インパクト評価」手法が、規制措置ばかりでなく、すべての新規政策の事前評価手法になることが十分予想されるので、農林水産省におけるこの手法の適用システムを早急に確立し、混乱の生じないようにすること。

5. 農林水産政策の展開に際しては、わが国経済や社会の動向を反映してその転換を図ることを求められることが多くなると思われるが、そのような場合には、例えば平成13年の「BSE問題に関する調査検討委員会」のように、外部の専門家の意見を踏まえるだけでなく、必要に応じて外部の専門家に評価の全部または一部を委託して総合評価を行い、その結果を公表して国民に対するアカウンタビリティを果たしつつ、政策決定するよう心がけること。

6. 農林水産省では、平成 12 年度の政策から政策評価（実績評価）を取り入れ、着実に実行してきたところであり、そのことについては高く評価するものであるが、今後は、実績評価の結果を有効に活用するため、当初の政策目的が果たされていないことが明らかになったものや、当初の政策目的と乖離の大きいものについては、「総合評価」を行って詳細にその原因を究明し、次の政策に反映させていくようなシステムを構築すること。

7. これまでの提言でも申し上げたことであるが、政策評価の円滑な実施のためには、幹部から係員までの職員が一体となつての理解、協力が不可欠であるので、引き続き、研修等、政策評価スキルの向上のための努力を継続すること。